

お彼岸の中日も終わり、お参りに来られる方も少なくなってきた二十四日の夕方、テレビを見てみると、茨城県の鬼怒川の堤防が決壊して水害が発生。その時警察や消防に救助要請が相次いだそうですが、思うように救助活動が出来なかつた様子が報道されていました。この時、ふと救助活動はどのような順番でされていたのかを考えてしまい、次のような話を思い出しました。

それは、京都嵐山に臨濟宗の天竜寺というお寺があります。その管長にもなられた方で、橋本峨山さんというお坊さんが、ある公演で次のようなお話をされたそうです。

「ここに大きな池があります。この池にあなた方の実のお母さんとあなた方の奥さんが溺れかけています。一刻も早く助けなければなりません。あなたの方は、一体どちらを先に助けますか。」と聞きに来られた方に訪ねたそうです。さてこれを聞かれていますあなたは、どちらを先にたすけますか。一度で二人を、同時に助けることは出来ません。親を先にたすけますか、それとも奥さんを先に助けますか。

迷うところですよ。どちらを先に助けるのか、どちらを先に助けるにも、それぞれに言い分はありますでしょう。

そこでその管長さんは、「仏様のものの見方からすれば、近くのものから先に助ける」と言われるのです。仏様のものの見方は、私たちと異なり、レットルを貼つてものを見るのではないのです。「お母さん」「奥さん」というレットルを貼らなければ、近くにいる人から助けるという答えなのです。

では浄土真宗の阿弥陀如来さまは、どうでしょうか。浄土真宗の阿弥陀如来さまは、今にも溺れて沈みかけようとしている人を先に助け、溺れていても余裕のある人はその次なのです。レットルを貼つたものの見方をされないことは一致していますが、他の仏様と阿弥陀如来さまの異なるところだと思えます。

阿弥陀如来様は、身分が貴いとか卑しいとか、男性だから女性だから、罪が多いとか少ないとか、信じたから信じていないとかを問題にせず、あらゆる人々に等しくはたらいていますが、先に助けなければならぬ人から助けられるのだと思います。

さて私は、先なんでしょうか、後なのでしょいかね。どちらなのでしょうかね。

